

## サポーターの皆様へ

「サポーター」から「励まし隊」へ

私の住んでいるのは、京都の西山の麓です。

東海自然歩道のルートや、ポンポン山ハイキングコースが近くにあり、今度の休みに走りに行くからと連絡を頂きます。そこで、近くまで来るのだからと一緒に走ったり、手ぶらで行くのも味気ないので簡単なエサをカバンに詰めて食べて貰ったりします。

日本縦断も同じような感じで、知っている人に近くを通るのだから連絡して、久しぶりの顔を見たいくらいの気持ちでサポーターをお願いしました。

「出来ることがあれば言って下さい」「何か役に立つことがあれば」と多くの人から有難い声を頂きました。中には「サポーターしたいが車を出せないでもいいでしょうか」、「平日には仕事があるので夜ホテルまで行きます」とか、こちらが想像していない質問までありました。また、「親の介護で目が離せない」「通過するコースは遠すぎる」「体調が悪く申し訳ない」と心痛くなるようなお話も聞きました。一番多い質問は「何をすればいいか判らないが応援します」でした。

日本縦断走り旅は、日本の北端から南端まで自力で走ります。走りに必要な物はカバンにつめて自分で担いでいきます。サポート車もなければ、荷物の搬送ありません。毎日、決められた宿泊地から次の宿泊地まで、走る途中、どこかの店で食料を手に入れたり、自販機で飲み物を補給しながら走ります。すべて自分でやります。エイドを期待したりもするのですが、あれば感謝で、無くて普通です。たとえエイドがあってもそう長く時間を過ごせないのが現実です。少しでも前に進みたいからです。

「サポーター」から「励まし隊へ」という表題にしました。

何かを手伝うという意味でサポーターと理解した人が多かったようです。私的には心のサポーターという意味で使ったので誤解を招いたようです。判りやすい「励まし隊」に名前に変更しました。

この街にはあの人が住んでいる。都合がつければ少しだけでも顔が見られるかも知れない。話が出るかな。そんな気持ちでその日スタートすれば、期待を膨らませて走ることができるでしょう。会えなくても、あの人はこんな所にすんでいるのか、走り終わったら、「あの人の街を通過したことを話そう」と思うでしょう。そう思える日は走りも元気になります。嬉しくなります。

待つ人がある。会える人がいる。あの人の街が見れる。

日本縦断で12人のランナーが走ります。

自分の国を、みんなの住んでいる国を走ります。体力的に無理なので走れない。家族の介護など家の都合で走れない、仕事を長期間休んでまで走れない。でも、走りたい。そんな人が応援して頂きながら走らせてもらいます。体力がいくらあっても、気持ちがなければ走りきれないのではないのでしょうか。

励ましをお願いします。

「励まし隊」の皆様をお願いしたいのはそれだけです。

どんな形でも、どんな方法でもいいのです。

「応援しているよ」「頑張れよ」「くじけちゃだめだよ」

それが、ランナーに届けば、これ以上の励ましはありません。

その励ましが、ランナーを前にすすめるでしょう。

そして、それが憧れのゴールにたどりつけると信じています